東日本大震災 MSW 災害支援ニュース

JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 25 年 8 月 23 日 第 3 巻(第 9 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷ヂンゴビル 2F
災害支援チーム TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

＊＊＊目 次

1. 協力員として参加して
2. 石巻での活動の様子
3. 川開き祭りに参加して
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 事務所感想文

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ」

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」

好評発行中です。活動継続の為の寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえご覧ください！！

詳細は、
“3. 災害支援チームからのお知らせ”を
ご参照ください。

＊＊＊1.　協力員として参加して＊＊＊

活動期間：2013年 8 月 4 日～8 月 6 日
山﨑 まどか（東京都　東京厚生年金病院）

感想：

この度、初めて現地の協力員として参加させて頂き、本当に良かったと感じております。

石巻駅周辺では、津波の跡は一見ほとんど残っていないのですが、女川町、大川小学校の光景を目の当たりにして愕然とし、言葉で表すことができない感情がこみ上げてきました。

今、現地職員の方が関わっているのは、経済状況や家族関係、心身の健康など震災前から課題をもっていた可能性のあるケースが多くを占めているとのお話でした。仮設住宅、受診や役所手続きの同行の他、壁新聞ギャラリーの見学、被災された方々の交流会への参加などを通して、ご本人から地震発生当時の想いや決意、住民間で最近起きていること、約1年半経ち家族が初めて悲しみを表出したというエピソードを生の声で聞かせて頂くことができました。また、現地職員の方よりこれまでの個別ケースをもとに、価値観や被災状況によって喪失の深さや復興への姿勢がそれぞれ異なるのだということを教えて頂きました。

この3日間で、私は病院という枠組みからご本人を見ている自分に気づかされました。相手の世界から物事を理解しようとすること、関係職種についても同様で専門家である前に当然一人の人間であり、その職種の歴史、その地域で求められてきた役割、組織のやり方があるわけで、そこに津波という被害を受けたという状況があるのだということを認識いたしました。

被災地の方々のために、MSWとしてできることを日々模索しながら懸命に努めていらっしゃる現地職員の久保木さん、畑中さん、冨永さんを心から尊敬し、お礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

活動を検討している皆さんへ一言：

病院はあくまで地域の中の一資源であって、住民が主体となり多職種で協働して地域づくりをしていくのだということを改めて考えました。現地で過ごす時間は、皆さまにとってもきっと日頃の院内業務や地域活動について自分を見つめ直す良いきっかけになることと思います。

活動期間：2013年 8 月 8 日～8 月 10 日
養父智子（大阪府　大阪府済生会泉尾病院）

感想：

約 1 年ぶり（前回 2012 年 6 月）に石巻の地に立ち、瓦礫や廃車の山が減り、復興への期待感をもちました。しかし、市立病院は立て壊しの真っ最中、その周辺は青々と草が生い茂った更地が広がるなどまだまだ長い道のりの途中にあることを実感しました。

現在、3 名体制で現地スタッフは活動をされており、市役所や市社協にも活動の基盤をおきながら復興支援に携わられているとのこと。3 名の方はいずれも地元出身の方ではなく、信頼を得ることに始まり大変なご苦労をされていることと思います。そのような中でも、支援を必要としている被災者を発見し、その方が排除され孤立することのないように、また、よりよい町づくりが成されるように…との思いを感じました。

今後、復興住宅の申込みが始まり、仮設住宅を出て新たな生活を始められる方が増えてくる

そうです。ニーズはこれからも存在し続けるということを感じると同時に、NPO団体らの間でもテーマになっていた「地元の担い手にどう引き継ぐか」が私たちにとっても重要な課題となるのではないでしょうか。地元の方々へバトンパスできるまでやりきって、その後の評価が今後の災害支援システムの構築に有益なのではないかと思いました。

活動を検討している皆さんへ一言：
現地で、見て・聞いて・感じて下さい。

＊＊＊2．石巻での活動の様子＊＊＊

＊＊＊8/6 久保木 美由紀 （現地担当）

ケース対応：
労災について問い合わせ。労災給付の仕組み、療養補償から障害補償への移行手続きについて、本人の代行が必要な場面を想定しながら確認した。

RCI との勉強会：
参加者 16 名。「グループワークの活用」をテーマに佐原氏が講義。グループワークを既に実践している方、これから実践する方に向けて講義後、実際にグループワーク実践。

感想：
実践を取り入れたことで、グループワークのイメージがついた。グループに意図的にかかわることを意識しようと思った等、グループワークに意欲的に取り組む意見が多かった。

＊＊＊8/7 久保木 美由紀 （現地担当）

引きこもりの子を持つ家族会：参加者（約 30 名）
引きこもり支援団体の代表者、当事者家族の方の講話後、グループに分かれて近況報告。家族会に参加されて日が浅い方々のグループに参加。グループメンバーは当事者家族、スタッフ、医師（宮城県精神保健センター）ら。当事者家族の年齢は幅広く（30 代～70 代）、石巻住民の参加もあった。毎回参加できない方、しばらく休まれる方が、再度参加しやすい工夫がされていた。例：メーリングリストをつくり、会で話し合われたことを配信、チラシを次回配布。ネガティブな感情を話され、それをメンバー全員で支えられている姿が印象的でした。

＊＊＊8/8 久保木 美由紀 （現地担当）

ケース対応：
震災により生活が変化し、不安や課題が発生し、自身も手続等どこまで進んだかへの整理がついていない状況が続いていたが、2 年経過し落ち着きを取り戻していることが確認

できた為、完了とする。

第 4 回石巻仮設支援連絡会に参加：

現在、様々な団体によって行われている支援活動を「地元の担い手へいかに引き継いでいくか」をテーマに、今回はパートⅠとして、民生委員児童委員や町内会、地元NPOの活動の現状を各担当者より講義形式で説明。次回は 9/12 にパートⅡとしてワークショップ形式を予定している。

月例報告：

7 月活動報告。医療費を含め経済問題や家族関係に問題を抱えており就労等に向けての心理的サポートが必要なケースを報告。また、健康推進課より、復興住宅への移行支援を日本協会に依頼あり。進め方については今後相談していく。生活再建支援課からは、仮設入居者からの近隣トラブル相談が増加しており、ベースには経済、家族、介護等の問題があると思われ、生活再建課職員の訪問に同行し、一緒に対応を考えて頂きたいとのこと。こちらも進め方について今後相談。

＊＊＊8/9 久保木 美由紀 （現地担当）

家庭訪問：

①生活保護開始され通院は可能となったが、家賃滞納と住宅扶助が支給されていないことが分かり継続支援を行うこととなる。

②7 月に入院した夫の退院を確認し、生活が落ち着くまで継続支援を行うこととする。

③認知症を疑うケース。友人宅へ出かけるなど日常生活の様子を確認する。

十三浜音楽祭のイベント準備：

主体で関わっている方に挨拶をし、「浜甚句」を録音する場に立ち会った。浜甚句は相川地区に伝わる伝統の歌で、音楽祭では踊りも披露される。浜甚句を歌える方は高齢者のみで覚えている方から聞き取りをし、文字に起こしたと伺った。50 代の方達は歌えない方が多いらしい。歌い手は相川地区在住の 3 名と合いの手担当が 1 名。初めて聞いた歌だったが、懐かしさがあった。歌い手の一人はすごく恥ずかしそうにしていたが、イベントで自分もできる事があると生き生きした笑顔を見せてくれた。以前はお祝いの時には歌っていたので、地域にお嫁に来たら覚えた、と 60 代女性が話してくれた。その後、イベントの最終確認。私たちは送迎班でお手伝いをするため、どのように声掛けをするか、どの地域を回るかの確認を行う。

＊＊＊8/10 久保木 美由紀 （現地担当）

十三浜音楽祭イベント準備：

当日の全体的な流れを確認した後、ポスター作製し、送迎ニーズのある方の把握も含めイベントの誘い出し（大指、小指、にっこりサンパーク、集団地、小滝）。津波被害を受けたところと、受けなかったところの差が生じている津波被害を受けなかった地域でも、家族や親類が亡くなられ、サポートが必要な方々が居られた。このイベント準備に参加し、支援者と住民が一緒になって活動していること、それが可能になったのは、もともとあった地域のつながりを知り、そのつながりを生かして活動されていることが理解できた。集団地（昭和三陸地震で集団移転を行った地域）では、過疎化で集落がなくなっていく現実を考え、

自身の終わり方について考えているお話を伺った。これらの地域で起きている現実を私たちがどうとらえ、支援に入っていくのか考えさせられた。

＊＊＊8/11　久保木　美由紀　（現地担当）

十三浜音楽祭 2013 イベント：

このイベントを通して多くの方々の笑顔に出会うことができた。誘い出しに行き、実際来て下さった方は 4 名であったが、最後の花火の際には「特等席で見られてよかった。」、「お父さんにも見せてあげたい。」と感激されていた。灯籠のメッセージの中には、直面している現実と悲しさと強さとちょっぴりのユーモアが感じられるメッセージだった。表面的には笑顔が見られても、抱えているものはまだまだあることを感じた。

＊＊＊8/19　久保木　美由紀　（現地担当）

ケース対応：

災害以後生活の変化にストレスを抱えながら生活を行っている。面接等を通じて意思確認を行い必要に応じて情報提供等行うことを確認する。
精神疾患を抱えつつも生活は安定しているケースに対応する。家族も本人の気持ちを受け止め、就労にこだわらず、社会参加希望。本人のことを大事に思われている。家族内での役割分担等継続して安定した生活が送れるよう支援を継続することを確認する。

＊＊＊8/20　久保木　美由紀　（現地担当）

ケース対応：

将来的に起こりうる問題点を地域包括等とも連携し支援を行う。家族間での役割分担に問題がなければ一旦集結も視野に入れることを確認する。
精神障害を抱える本人とその家族に対しての生活ストレスを軽減することを目的とした支援について、通院先の PSW とも連携を取りつつ状況を確認することとする。

ケース検討会議への参加：

担当ケース 2 件報告。

仮設住宅の様子について：

ポスター掲示の為、約 30 ほどの仮設住宅を訪問し、そこからいくつかの状況を確認。

＊＊＊3.川開き祭りに参加して＊＊＊

8 月 2 日　　冨永千晶

石巻での大きなお祭りといえば「川開き祭り」です。7 月 31 日と 8 月1日に、開催されます。この祭り は、治水で石巻の街を救った川村孫兵衛重吉翁に対する報恩感謝の祭りとしてはじめられ、供養際や川施機餓鬼供養際などの祭典行事 が厳粛にとり行われています。川開き祭りは、川の恵みに感謝するとともに、ご先祖様の供養のために始まったお祭りなのです。今年 も、

東日本大震災で犠牲となった多くの方々の御霊を弔うために、10,000 個の流灯を北上川に流しました。

お祭りは、街の伝統や絆を強めるのではないでしょうか。ご先祖を敬い、震災で亡くなられた方々の冥福 を祈り…そして、「今」生活していく人々の笑顔にしていくことを、感じるとができました。ただ、まだお身内が見つからない方や生 活再建までに奮起できない、仮設住宅での生活にストレスを感じている方々がいることを忘れてはいけないと仮設訪問支援員さんから の言葉に、ゆっくりでいいから復興への道のりを歩めていけたらいいなと思いました。

川開き祭りの様子

＊＊＊4.　災害支援チームからのお知らせ＊＊＊

【1.協力員募集】

＊＊＊現　地

1). 現在、1 日あたり上限 2~3 名で募集しております。
中 3 日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、
具体的な日程については、**災害支援チーム**までお気軽に
ご相談ください。

但し、初回参加の方は活動日数を 3 日以上でご参加お願い致します。

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

＊＊＊事務所

引き続き募集しております。
平日のみの活動ですが、1～2 ヶ月に 1 回でも構いませんので、
ご協力をお願致します。

【2.災害支援チーム会議の開催について】

第１回　災害支援チーム　会議　議事録

開催日時：2013.7.20(土)13：00～15：00

(敬称略・順不同)
出席　笹岡・葛田・長谷川・西田・山田・梅崎・久保木・畑中・佐藤・金子
欠席　相原・武山・富永・東・佐原・中川

1. 災害支援チームとして

・第１回会議に出席したメンバーが自己紹介した。
・チームとしての独立性を理事会として確認したことを、会議で確認した。

2. 2013 年度

(1)目標

下記 4 点の事業を中心に、関係各団体との連携をもとに医療ソーシャルワーカーの全国組織の団体として、石巻市の復旧復興に寄与する。
支援期間は 2011 年から 5 年間を目標として、今後起こりうる被災者の困難な生活課題への取り組みを支援する。

・引きこもりの子どもを持つ親の会の主催（市からの委託業務）
・RCI 関係の継続ケース支援（75 ケース）久保木中心
・石巻市内の MSW との連携事業
・仮設住宅在住者への支援事業

(2)財政面

・支出に関する今後の検討事項
・助成金の獲得計画について

3. 現地支援活動

(1)復興住宅への移行に関する情報収集など

・復興住宅説明会に参加した報告(久保木・畑中・山田)
・復興住宅入居に向けて

(2)ネットワーキング

沿岸部の小規模集落の一部の住民や地元のNPOの人たちとの協働・連携を模索している。
役所の窓口に相談に来る層とは異なる層の方々のニーズに対応している NPO と連携・協働することで、多様なニーズを把握できる。
小規模集落の住民が主体となって行う、音楽祭＋鎮魂花火打ち上げの会に、NPO 法人水守の郷・七ヶ宿及び有志が、支援をしており、協力予定（8 月 11 日）。
復興を推進していく上で、現在小規模集落で起こっていることを、伴走型支援をしながら理解し、必要なことはソーシャルアクションに繋げていく必要がある。
繋いだネットワークを現地担当に繋いでいく方策を検討していくことが重要。

(3)グループワーク

ひきこもりのグループは現在集まりづらいが、東京でグループをやっても時間を要するもの。
支援者支援が必要との感覚はある
短期の支援者についての支援の必要性がある

◎現地の記録システム(資料:災害支援管理システム(仮称))

篠原理事が作成したもののマニュアル配布
操作方法等は、篠原理事から現地常駐者へ直接伝える予定

●月報・市報告書(資料・東)

「4 月」「5 月」「6 月」

◎報告書類の配布範囲

日報:災害支援チーム、井手之上災害支援ニュース担当者
月報:災害支援チーム、理事・監事
災害支援ニュース:災害支援チーム、理事・監事、会長会事務局

4. 事務所活動

災害支援チーム主催　講演会　開催予定

日　時:2013 年 10 月 19 日(土)　10:00　～　16:00
会　場:　TKP 信濃町ビジネスセンター　ホール 2　　トーシン信濃町駅前ビル 5 階
テーマ:「石巻の今後と今私たちが心すること　－災害がもたらす事象の検証－」
グループワーク:10 名くらいでGWをする。ワールドカフェ方式を検討
講　師:宮城先生・長先生
参加費:5000 円

バザー、サイレントオークションなど

・協会主催の研修会など、すべての機会を利用して資金確保を目指す
・品物の確保については理事会でも検討予定。

5. 次回会議予定

●日程

9 月 29 日(日)13:00～15:00　　会議室

【3.災害支援チーム主催の講演会】

日　程:2013 年 10 月 19 日(土)　10:00　～　16:00
会　場:　TKP 信濃町ビジネスセンター　ホール 2

★詳細はホームページに掲載いたします。
⑦アクセス手順をご覧にください。
みなさまの参加をお待ち致しております。

【4.書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。
ぜひご覧になってください。
尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、
本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。
バトンⅠとバトンⅡとを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。
送料表でご確認下さい。
（注文用紙はホームページからダウンロードできます）
バトンⅠ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45
バトンⅡ：URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

【5.facebook】

facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いいたします。

＊＊URL＊＊
http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970

【6.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を
前事務所担当の一原さんが VTR に
まとめて下さいました。
現在はサポートセンターを活動拠点として
おります。当時の様子を知っていただく
貴重な資料として、YouTube にアップして
おりますので、是非ご覧下さい。

「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

＊＊＊URL
http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be

【7.講演会受講申込フォームへのアクセス手順】

①日本医療社会福祉協会のホームページを起動
②研修情報　タブルクリック
③研修案内情報　クリック　　－＞　研修案内情報を表示
④災害支援チーム主催　講演会　クリック　－＞　開催案内フォーム表示
⑤開催案内フォーム上で
⑥受講申込フォーム　クリック　　－＞　申込フォーム表示
⑦申込項目入力　確認押下
⑧関連ファイル：2013/08/19　クリック　－＞　PDF ファイル表示　ファイルダウンロード可能

＊＊＊5．事務所感想文＊＊＊

＊＊＊　8/19　金子　小夜子　（災害支援チーム事務所）

猛暑が続く日々ですが、大分県から交代で 5 名の方々が支援活動に参加してくださいます。日程は本日から 23 日までです。うれしい限りです。

＜編集後記＞
猛暑・・・酷暑どちらも当てはまらないような暑い日が続いております。徳島でも5日連続で熱帯夜が続いている様子です。立秋もすぎ少し秋らしくなるかな？と思いつつも中々やってこない秋を待ちわびています。時折吹く熱風に秋の気配があればいいのですが、もう少し、あと少し、皆様もご自愛下さい。

（編集担当　鴨島病院　医療ソーシャルワーカー一同 ）

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 8 月 23 日　　第 3 巻 9 号
作　成　　徳島県医療ソーシャルワーカー協会